

【大樹】独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)は18日にも大樹航空宇宙実験場で、今年度2回目の小型無人飛行船の機能試験を始める。23日ごろまで続ける予定。今回は10月に新潟県で行う飛行船のデモンストレーションの準備を兼ね、前回よりさらに大きい飛行船を使って離着陸や飛行を試す。

## JAXA小型無人飛行船試験

# 9メートル級で運用確認へ

## 大樹あすから今年度2回目

地震や風水害による広域災一被災情報を取得し、防災に役一テムの研究開発の一環。大書の際、飛行船などを使って一立てる「災害監視無人機システム」樹での試験は3年目を迎える。



今年度2回目の機能試験が行われる小型無人飛行船(8月)

今回は、8月に続いて実施

する。JAXA無人機・未来型航空機チームの約10人が作業を担当。

今回は、同チームが10月18日に新潟県長岡市で実施される震災対策訓練で、飛行船のデモンストレーションを行うことから、その準備を兼ねて機能試験を行う。飛行船は前回よりも1.5倍大きい全長9メートル級を使用。高度50メートルに上昇させ、地上の様子をカメラで撮影するほか、動力の故障を想定した訓練も行いたいという。

さらに、昨年度末に開発した地上運用台車を使用し、ヘリウムガスの注入や離着陸など一連の流れを確認する。同チームは「前は天候に恵まれなかったことから、ぜひ挽回(ひんか)したい」としている。(佐藤圭史)